

【当日出された意見等】

	意見内容	委員	回答	回答者	対応	備考
1	<b>（小学校区福祉委員会（仮称）について）</b> 小学校区福祉委員会（仮称）の現状と進捗を少し教えてもらいたい。	鈴木委員長	本来であれば各地域へ出向き、たくさんの方に説明等を行っていくところだが、コロナの影響もあり難しく、また地域によって状況も違うところもあるため、区社協と相談しスムーズにご理解をいただけるよう地域を絞り、まずはモデル的に進めていけるよう調整に入っていくところです。	嶋原課長	第2回地域福祉推進会議で報告します。	
2	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 協議体のメンバー、（協議体の）会議で出された課題がどうなったのかといったことを出してこない、事業計画が適切かという判断は誰もできないと思う。前回も同じことを意見したが改善されておらず、事業の達成目標の持ち方を、課題に対して目標をもつというようなやり方に変えた方がいいのではないか。	中村委員	大正区の事業・業務計画書では、区役所としての目標が一定の数値として表れるものを設定しております。委員がおっしゃるように事業の目的という部分に関しては、協議体で議論をし、設定していく必要があると思います。	稲岡 課長代理	量的な目標と協議体での議論内容など質的な目標を網羅でき、分かるように工夫し、事業計画書についても改善していきます。	
3	<b>（地域福祉推進会議メンバーについて）</b> 子どもや障がい者の分野の委員をもっと増やし、いろんな人たちが参加している知恵を出すほうがいいのではないかと。	中村委員	地域福祉推進会議は地域福祉全般の専門家より意見聴取することを目的としております。区役所が所管する協議体には、各分野に関する専門職の方々にも、ご参加いただいております。委員の皆様よりいただいたご意見は各協議体へフィードバックすることになっております。	福祉 グループ	—	
4	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 数値的目標として多くの事業で広報周知を掲げているが、あまり効果がないのであれば、もっと他のものを探していかなければいけないのではないかと。	鈴木委員	区役所が所管する広報紙やホームページなどの広報媒体を活用するとともに広報サポーターの協力も得て周知啓発を実施しておりますが認知度に減少が見られます。周知が必要などころなどについてもご意見をいただければと考えています。	稲岡 課長代理	各協議体において認知度の向上について議論するとともに、新たな広報手法については当区広報担当とも連携し積極的に活用してまいります。	福祉 グループ
5	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 面前DVとはどのようなものか教えてほしい。	中村委員	夫婦、パートナー間の喧嘩や暴力などを、子どもが目にしていない状態を面前DVであると捉え、目にした子どもは心理的に傷つきますので、心理的虐待として対応しています。	池田課長	—	

【当日出された意見等】

	意見内容	委員	回答	回答者	対応	備考
6	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> こどもの居場所づくり支援とは具体的にどのようなものか教えてほしい。	中村委員	教育分野の会議体である総合教育会議の中でも議論が始まっており、こどもの居場所については全て行政が担えるものではなく、施設や団体なども踏まえて検討を広げていきたいと考えております。事業計画の中でも具体性をこれから検討していく段階となっております。	池田課長	居場所づくり支援につきましては、大正区総合教育会議におきまして、こどもたちが気軽に立ち寄りたいと思える家庭・学校以外の居場所のかたち（案）をお示して検討しているところです。 また、こどもへの支援につきましては、個々の状況に応じ、居場所も含め適切な働きかけを検討し、支援していく必要があると考えております。	こども・教育
7	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 家庭児童相談とはどのようなことを、どの程度行っているのか教えてほしい。	鈴木委員長	家庭児童相談は以前は項目立てをしていたものを、児童虐待の中に統合しました。2名の家庭児童相談員が保護者からの相談やお子さんとの面談など継続した支援を行っております。また、必要に応じて発達検査や医療機関受診につなげたりしております。	池田課長	—	
8	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 不登校の増加の背景はどのようなものなのか。また、不登校にどのような対応をとっているのか。こどもの居場所づくり支援は、こどもサポートネット事業に関連してくるのか教えてほしい。	鈴木委員長	こどもサポートネット事業で登校状況等を把握しており、不登校の状況が明確になったことが、増加の背景の一つと考えています。不登校支援として学習・登校サポート事業を実施しており、中学生の不登校も対象に拡充し支援を行っております。また、居場所づくり支援もこどもサポートネット事業の一つの支援と考えております。	池田課長	—	
9	<b>（生活困窮者支援会議）</b> 生困シェア会議の対象に生活保護受給者が入らないので、生活保護受給者については、生困シェア会議の支援会議をつながる場という形で行うのか。 そのようならば、支援会議が生活保護にならないためだけの話をするにならないか心配。	中村委員	生困シェア会議もつながる場も、抱えておられる課題を解決して生活が行えることを目的としており、どちらの会議が該当してくるのかはその都度あがってきた内容について整理を図ります。会議の参加者についても大きく変わることはなく、工夫をして課題に対応してもらえるよう、会議に必要な方に参加していただいで進めていきたいと考えております。	嶋原課長	第2回地域福祉推進会議で状況を報告します。	

【当日出された意見等】

	意見内容	委員	回答	回答者	対応	備考
10	<b>（生活困窮者支援会議）</b> 生困の対象者と生活保護の対象者も含めた本当の困窮者を支援する、生活困窮者支援会議とつながる場をまとめた全体図があれば、共通理解を得られたり、想定していなかった懸念事項が見えてくることもあるのでいいのではないかと。	鈴木委員長	区としては、今までの生困シェア会議の対象者は、生活保護受給者も含めているという思いがあり、複合的な課題に対しては生活困窮者自立支援法だけではなく、全体で解決に向け取り組むのが一番だと思います。きれいな図ができるかどうかはわからないが、少し考えたいと思います。	嶋原課長	第2回地域福祉推進会議で報告します。	自立支援 相談窓口
11	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 令和3年度はコロナで様々な予定どおり進んでいないのが実態だと思います。そのしわ寄せをどの程度取り戻して計画に沿うようにするのか、しわ寄せが解消できなかったところはどうか。	飯田委員	コロナ関連の対応で手を取られている部分もありますが、これまでの事業も対策を取りながら進めていきたいと考え、またコロナ禍でもできることを進めていくよう区役所でも考えております。	嶋原課長	令和3年度の事業計画の実績や、課題への対応については来年度の会議でご報告します。	
12	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 協議体関係の連携がいつも話に出ているが、共有と連携がちゃんと本当に機能しなければ、絶対に成功することはないし、前に進むこともないと思う。	中山委員	各協議体の連携につきましては、他区の事例や事業運営などアンテナを張り、いい事例を共有し連携を取って進めていきたいと考えております。また、頂きましたご意見を参考に一緒に考えていきたいと思っております。	嶋原課長		
13	<b>（協議体の令和4年度の事業計画）</b> 家にいたくない、学校から家に帰りたくない、居場所のない子たちが結構いると、子ども食堂を運営されている方からの聞か、居場所づくり支援の中でそのような子たちの対策を考えていただいているのか教えてもらいたい。	鈴木委員	こどもサポートネット事業のスクリーニングシートを発端として、いろんなお子さんの状況を把握しておりますが、家庭状況からは、家にいたくないという情報までは把握しておりません。どのような居場所を提供できるかになると思っておりますので、ご意見も参考にさせていただきたいと思っております。	池田課長	居場所づくり支援につきましては、大正区総合教育会議におきまして、こどもたちが気軽に立ち寄りたと思える家庭・学校以外の居場所のかたち（案）をお示しして検討しているところです。また、こどもへの支援につきましては、個々の状況に応じ、居場所も含め適切な働きかけを検討し、支援していく必要があると考えております。	こども・教育